

## トルコギキョウの香りとその可能性

多様な花色と長い茎、日持ちの良さが特徴のトルコギキョウは、世界的に人気の高い花ですが、香りはないとされています。しかしトルコギキョウの花は決して無臭ではなく、ハーブあるいは乾いた草のような弱い香りを持ち、まれに弱いながらも甘い香りを持つ品種が存在します。さらに、ヒトにとってはごく弱く感じられるトルコギキョウの香りは、ネコを引きつけます(図1)。トルコギキョウの香りの成分を明らかにし、その利用の可能性を示しました。

### ☆ 技術の概要

1. 国内の種苗会社で育成されたトルコギキョウ数十品種の官能評価から、弱い甘い香りを持つトルコギキョウ「ニューリネーションホワイト」を見いだしました。その花の香気成分をGC-MSにより分析したところ、モノテルペン類、セスキテルペン類、芳香族化合物に分類される36種類の化合物が検出されました(図2)。甘い香りの原因成分は、オイゲノールなどの芳香族化合物でした。
2. 「ニューリネーションホワイト」の花から検出された成分の中には、マタタビの成分として知られるイリドイド類とアクチニジンが含まれていました。それらの成分は、「ニューリネーションホワイト」以外のトルコギキョウからも検出されました。
3. オイゲノールは、香りの良いトルコギキョウ品種を育成するための指標となります。オイゲノールを多く含む甘い香りの品種が育成されれば、トルコギキョウの商品価値を高め、トルコギキョウに新たな魅力を付与できると考えられます。



図1. トルコギキョウに反応するネコ

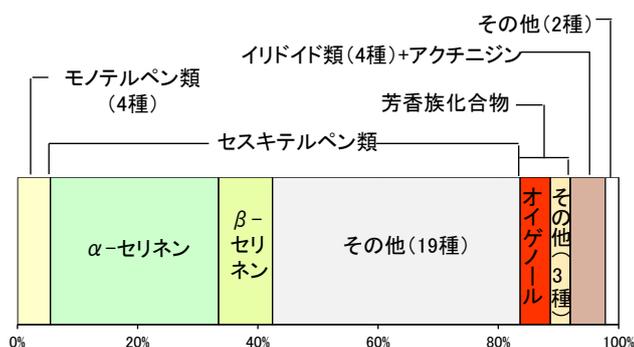


図2. トルコギキョウ「ニューリネーションホワイト」の香気成分組成 (%)

### ☆ 活用面での留意点

オイゲノール量を指標とした甘い香りを持つ品種育成の際は、育成過程の品種の官能評価だけでなく香気成分分析を行い、オイゲノール量を確認する必要があります。また、トルコギキョウを花のマタタビとして利用する際は、品種によってイリドイド類の含有量は異なるので、対象品種のイリドイド量を確認する必要があります。

(農研機構 野菜花き研究部門 大久保直美)